

## 保育士視点からの少人数保育園の課題等の考察

### 1 保育・子ども発育について

#### (1) 保育現場の課題等

- ・少人数を異年齢で保育することは利点もあるが、同年齢の集団活動ができないことは子どもにとって大きなマイナス。
- ・少人数で目は行き届きやすいが、行き届きすぎてしまう面もあり、子ども同士関わる中から育つことの方が大事。
- ・集団としての活動が制限される。
- ・保育の基本が異年齢保育になると、活動の焦点をどの年齢に当てるか、どう組み立てるかが課題となる。
- ・他園との交流機会や世代間交流を定期的にするなど頻度を多くする必要がある。
- ・1人の保育士が受け持つ年齢が複数にわたることで、指導計画、個別計画等、保育士の負担感も大きくなる。
- ・職員数に伴い日常の職員負担は増加する。
- ・年長児は、集団で行うルールのある遊びや、グループ活動を通して「協働性」をいかに培っていくかが課題。
- ・保育士数が少なく、ローテーション勤務がかなり負担。
- ・子ども一人一人に目が行き届き、時に子どもが本来持っている力を引き出しそびれてしまう傾向がある。
- ・保育士の意識として経験・活動の幅を広げる工夫をするにしても限界はある。
- ・未満児は、年齢構成によっても職員配置が異なり、手が足りない状態が予想される。
- ・未満児は、少人数でゆったりと過ごす環境が良い。
- ・未満児にとって、少人数でのゆったりした保育環境はとても大切。
- ・未満児にとって少人数で落ち着いた環境は、一人ひとりのペースを尊重できる。
- ・未満児は、個の対応が多く、少人数でもそれほど問題はない。

#### (2) 子供の成長に関する課題等

- ・遊びを共有してくれる子を見出すのが難しく、特定の間関係の中で過ごすことが子ども達にとってどうなのか疑問。
- ・同年齢児同士の関わりが薄く経験の幅が狭い。
- ・人間関係の中で育つものがたくさんある中、関係が小さく経験も広がらない。
- ・異年齢保育で育つ力もあるが、ある程度集団としての同年齢の子ども同士の関わりの中で育つ力がつけられない事が課題。
- ・保育士頼りになりがちで、自立心より依頼心が育ちやすい。
- ・自信、頑張る力、協調性、コミュニケーション力等が育ちにくい。

## 2 保護者の立場としての考察

### (1) 幼児について

- ・小規模を希望して入園させている保護者は別として、親はある程度の人数の中で育ってほしいと思うのが親の気持ちだと思う。
- ・友達関係など保護者としては心配。
- ・地域の保育園として、保護者にとってはその地で暮らしていく上で存続した方がよいかもしいないが、我が子にとって思わしくない場合（限られた人間関係等）は、地域に関係なく、他園へ行くことは対応の一つになる。
- ・地域の保育園がなくなると、遠距離地区は送り迎えに時間がかかり負担増。
- ・少人数でしっかり見てもらえ嬉しいと思っている保護者も多いと思うが、しっかり手をかけることが必ずしも良いことばかりではない。

### (2) 未満児について

- ・仕事や送迎に都合の良い園を選択する。
- ・小さい子を遠い園まで預けに行くのは負担が増大する。
- ・ゆったりと見てもらえるので良い。

### (3) その他

- ・人数が少ないため保護者が園の行事に必ず参加することが前提になるなど、役員の負担が大きくなる。
- ・保護者の中には、もう少し園児数の多い保育園に入りたいが、地域の縛りがあり転園しにくいという声を聞いている。

## 3 児童減少地域の小学校・地域との関わり方について

### (1) 小学校との交流

- ・小学校との交流は工夫次第で隣接園でも継続できると思う。
- ・小学校との交流を持つ園が複数になると学校との日程調整が課題。
- ・学校とのつながりが希薄になることが課題だが、ある程度交流をして関わっていけば対応できる。

### (2) 地域との交流

- ・一番問題視するのは、子どもの育ちにとって一番必要な環境はなにか、どんな環境の中で育つことが望ましいのかを一番に考えること。
- ・地域とのつながりは濃くなるが、交流はどちらにとっても負担も大きくなる。
- ・人数を確保するために、他の地域から大勢入ってきた場合、地域の方たちは実際どう感じているのか、また、地域の方は保育園に対して何を望んでいるのか、きちんと把握したい。
- ・廃園になると地域から子どもの声が消え寂しくなる一方で、すでに廃園になった地域では特に変わりなく過ごしているようにも見受けられる。
- ・園存続の思いも受け止めながら、小規模園は、子どもの育ちに地域や小学校の力は今以上に必要となる。